

taxista Premium 2024-2025

NO.123

【タクシスタ】TaxiとFantasistaの造語
「タクシーに携わる全ての人の未来に創造性を」との意



Let TAXI Be TAXI Again.

～タクシーをもう一度“タクシー”にしよう～

原詩はハーレムの桂冠詩人と謳われた、ラングストン・ヒューズ(アメリカ)のもの。

彼は詠う「アメリカをもう一度アメリカにしよう 昔夢見ていたようにしよう

自由な故郷を探し求めていた 大平原の開拓者たちの地にしよう」

「心に思い描いた夢のアメリカにしよう 愛に満ちた偉大な地にしよう

王たちの共謀も暴君の圧政もない どんな人も上から押しつぶされることのない地に」と

2025年は昭和100年の大きな刻み。そして新時代への本格的な船出のとき。

「心に思い描いたタクシー業界に」「利用者と相互の信頼と愛情に満ちた偉大な移動産業に」

さあ!“タクシーをもう一度タクシーにしよう”

もはや「タクシーが、ライドシェアが」ではない ベトナムの新サービス「Xanh」への期待

阪南大学経済学部教授 三木隆弘

3. 今年度の三木ゼミ2年生のGrabへの反応

「今年の夏季休暇も、梅田交通グループ代表の古知愛一郎様、交通論壇社代表取締役社長の小北隆弘様の絶大なるご支援を得て、2年生の海外研修（バリ島）を実施した。今回の研修テーマのメインは「バリ島への日本人観光客を増やそう」だったのであるが、当然現地ではGrab

を利用してもらいその利便性などについて調査してもらった。彼らの素直なGrabに対する感想は以下の通りである（学生レポートから抜粋）。

●Grabはアプリで簡単にタクシーやバイクを予約でき、低価格で利用できる。特に初めてバリ島を訪れる観光客にとってGrabの存在は移動のストレスを軽減してくれると感じた。

●日本人観光客を増加させるために必要なことの1つは、Grabのような海外で使用できるライドシェアアプリを知ってもらうことだ。今回数回Grabを使用して思ったことは、車や運転手によってかなり変わり、タクシーとは違っていることや他の車と同じように運転が危険な場合があると思う。だが、これを知っているだけでバリ島の観光が楽になると考

える。

●今回バリ島に行ってみて、行く前と行った後のイメージがとて変わりました。Grabを使うことで簡単に目的地にたどり着くことができ、現地の人達はとても親切で言葉が分からなくても簡単に伝えてくれるなど今回の海外研修で良い点を沢山見つける事が出来ました。

●現地での利用者が多いGrabの存在も観光者にとって移動手段や飲食店検索

などにおいて、日本人観光客にも利用しやすい便利なツールで、観光を楽しめるというメリットがあるため、共にアピールする必要があると考える。

●バリ島での移動手段は基本Grabというライドシェアアプリを使って行いました。バリ島でのタクシーの運転手は良い人が多かったですが、道がすごく混んでいるなどの時は少し運転が荒い人もいました。

今回Grabを使って感じたことは、値段がとにかく安いし、運転手と連絡を取りながら待てるので、分かりにくい場所でも見つけやすいのが良いと思いました。ですが、運転している人が仕事を早く終わらせたいのか分からないです。狭いところでスピード出したり、すり抜けをしまくったりと、お客さんの安

な気がしました。

概ね「利便性に対しては高評価、安全性については不安あり」という感じの評価である。ただ、インドネシアの運転を以前から知っている筆者の立場から申し上げると、Grabの運転が荒いのではなくインドネシア全体の運転が荒く、これはタクシーに乗ってもあまり変わらない（今回現地のブルーバードタクシーなどは一切利用させていない）ので、これが本当にGrabに対する不安かというところではないように思う。

